㊔

平成２８年度
第６回市政モニターアンケート

障害福祉施策について

北九州市市民文化スポーツ局広聴課

目　　次

Ⅰ　調査の概要 …… 1

Ⅱ　市政モニターの構成 …… 1

Ⅲ　調査結果 …… 2

【１．障害のある方への理解や関心について】

（１）　障害のある方との交流経験の有無 …… 2

（２）　障害のある方との交流の具体的な内容 …… 3

（３）　障害のある方と交流した経験がない理由 …… 5

（４）　障害者福祉への関心の程度 …… 6

（５）　障害者福祉に「関心がある」理由 …… 7

（６）　障害のある方に対する差別・偏見を感じるか …… 8

（７）　障害のある方に対する差別・偏見を「感じることがある」理由 …… 9

【２．北九州市の障害福祉施策の取り組み状況について】

（８）　障害者の雇用・就業機会の確保と拡大について …… 10

（９）　障害者就労施設等の物品等に対する需要の拡大等について …… 12

(10)　発達障害のある人に対する理解について …… 14

(11)　障害者差別解消法の周知について …… 16

(12)　障害のある人の人権の尊重について …… 17

【３．共生社会を実現するために必要な取り組みについて】

(13)　あなた自身が地域の一員としてできるとおもうことについて …… 18

(14)　共生社会を実現するために今後さらに力を入れるべき取り組みについて …… 20

(15)　北九州市の障害福祉施策についての意見 …… 23

Ⅳ　全体考察 …… 24

Ⅰ　調査の概要

調査対象者	市政モニター　１４９人
回答者数	１３３人（回収率　８９．２６％）
調査実施日	平成２８年１０月　４日～平成２８年１０月２０日
実施方法	調査票による郵送及びインターネット調査
調査実施課	市民文化スポーツ局広聴課　℡５８２－２５２７
調査依頼課	保健福祉局障害福祉企画課　℡５８２－２４５３

Ⅱ　市政モニターの構成

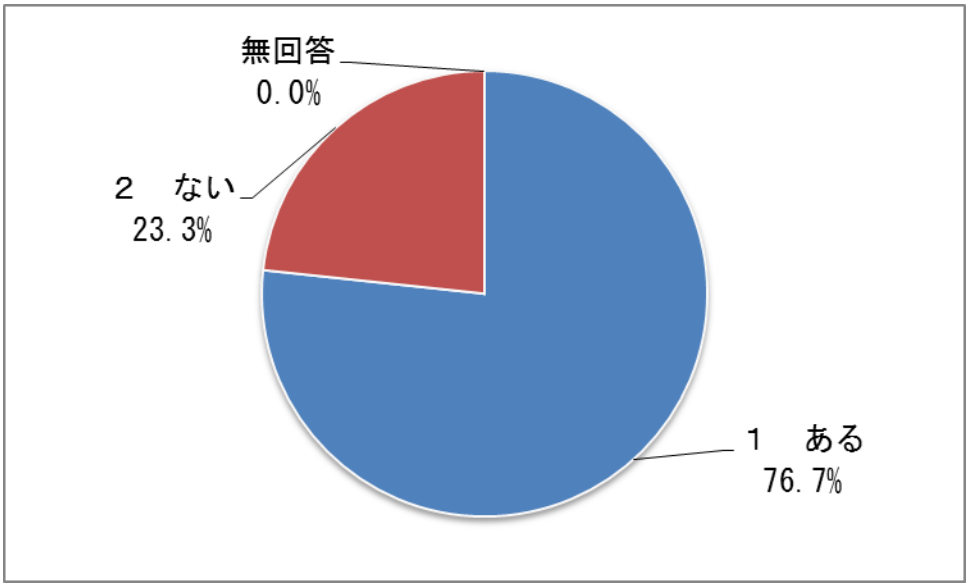
区分	合計	男性	女性	区分	合計	男性	女性
全体	149 （ 100.0% ）	47 （ 31.5% ）	102 （ 68.5% ）	区　別			
				門司区	16 （ 10.7% ）	5 （ 3.4% ）	11 （ 7.4% ）
20歳代	17 （ 11.4% ）	2 （ 1.3% ）	15 （ 10.1% ）	小倉北区	26 （ 17.4% ）	6 （ 4.0% ）	20 （ 13.4% ）
30歳代	23 （ 15.4% ）	6 （ 4.0% ）	17 （ 11.4% ）	小倉南区	31 （ 20.8% ）	11 （ 7.4% ）	20 （ 13.4% ）
40歳代	28 （ 18.8% ）	5 （ 3.4% ）	23 （ 15.4% ）	若松区	16 （ 10.7% ）	12 （ 8.1% ）	4 （ 2.7% ）
50歳代	20 （ 13.4% ）	7 （ 4.7% ）	13 （ 8.7% ）	八幡東区	12 （ 8.1% ）	2 （ 1.3% ）	10 （ 6.7% ）
60歳代	33 （ 22.1% ）	12 （ 8.1% ）	21 （ 14.1% ）	八幡西区	39 （ 26.2% ）	6 （ 4.0% ）	33 （ 22.1% ）
70歳以上	28 （ 18.8% ）	15 （ 10.1% ）	13 （ 8.7% ）	戸畑区	9 （ 6.0% ）	5 （ 3.4% ）	4 （ 2.7% ）

※　数値の単位未満は四捨五入を原則としましたので、総数と内容の合計は一致しない場合があります。

Ⅲ　調査結果

１．障害のある方への理解や関心について

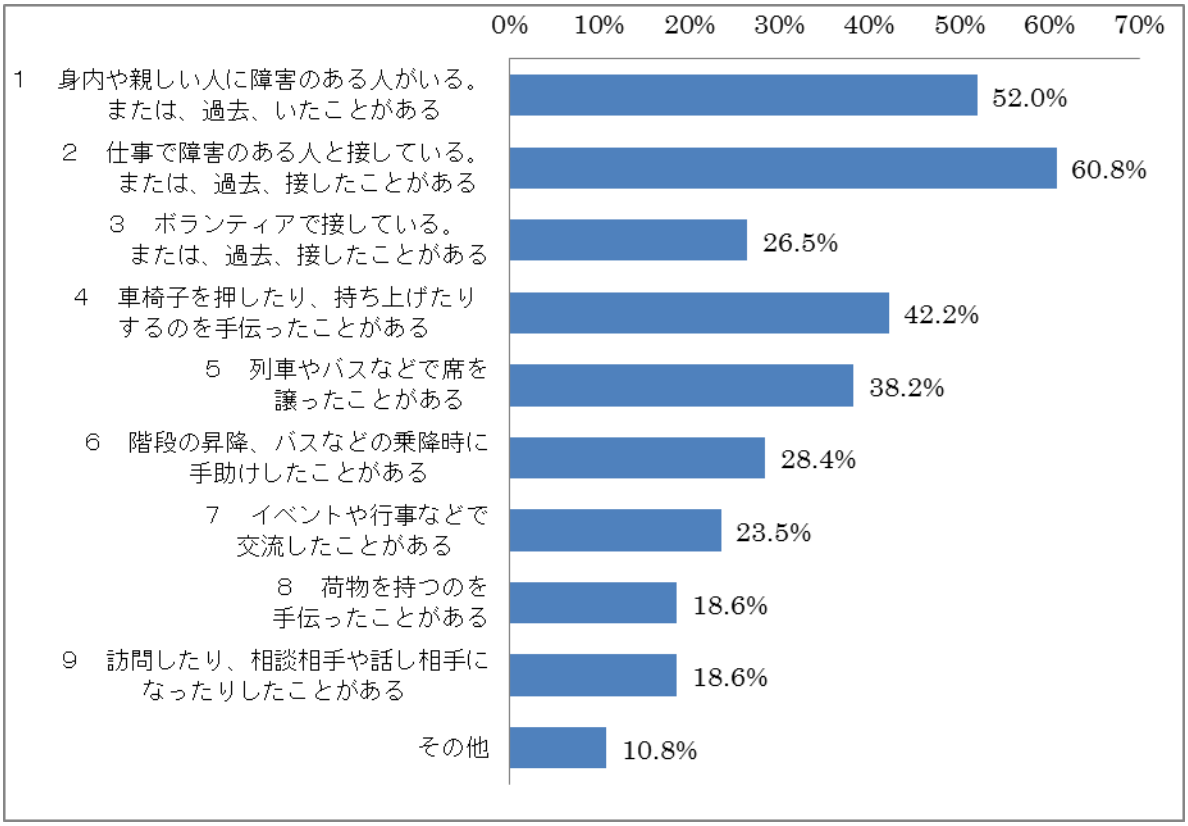
問１　あなたは、今までに障害のある方に接したり、交流したりした経験がありますか



		回答者	１ ある	２ ない	無回答
全体		133 人	76.7%	23.3%	0.0%
性別	男性	46 人	78.3%	21.7%	0.0%
	女性	87 人	75.9%	24.1%	0.0%
年齢別	20 歳代	14 人	50.0%	50.0%	0.0%
	30 歳代	19 人	78.9%	21.1%	0.0%
	40 歳代	24 人	75.0%	25.0%	0.0%
	50 歳代	20 人	80.0%	20.0%	0.0%
	60 歳代	29 人	89.7%	10.3%	0.0%
	70 歳代以上	27 人	74.1%	25.9%	0.0%
区別	門司区	16 人	62.5%	37.5%	0.0%
	小倉北区	23 人	65.2%	34.8%	0.0%
	小倉南区	28 人	78.6%	21.4%	0.0%
	若松区	14 人	92.9%	7.1%	0.0%
	八幡東区	11 人	81.8%	18.2%	0.0%
	八幡西区	32 人	81.3%	18.8%	0.0%
	戸畑区	9 人	77.8%	22.2%	0.0%

障害のある方に接したり、交流したりした経験が「ある」は、76.7%であった。
年齢別に見ると、３０歳代以上については、約７割以上、特に６０歳代については、約９割が「ある」との回答であった。

問２　<u>＜問１で「１　ある」と答えた方</u>におたずねします＞
それは具体的にどのようなことですか（○はいくつでも）

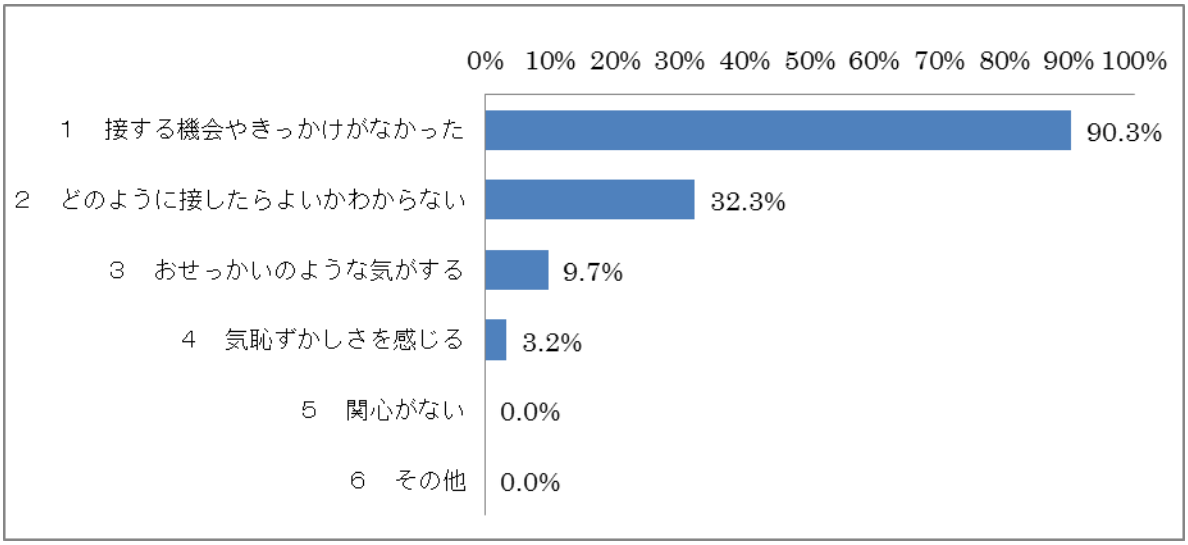


		回答者数	1　身内や親しい人に障害のある人がいる。または、過去、いたことがある	2 仕事で障害のある人と接している。または、過去、接したことがある	3 ボランティアで接している。または、過去、接したことがある	4　車椅子を押したり、持ち上げたりするのを手伝ったことがある	5　列車やバスなどで席を譲ったことがある	6　階段の昇降、バスなどの乗降時に手助けしたことがある	7　イベントや行事などで交流したことがある	8　荷物を持つのを手伝ったことがある	9 訪問したり、相談相手や話し相手になったりしたことがある	その他
全体		102 人	52.0%	60.8%	26.5%	42.2%	38.2%	28.4%	23.5%	18.6%	18.6%	10.8%
性別	男性	36 人	58.3%	75.0%	33.3%	50.0%	50.0%	30.6%	33.3%	22.2%	16.7%	5.6%
	女性	66 人	48.5%	53.0%	22.7%	37.9%	31.8%	27.3%	18.2%	16.7%	19.7%	13.6%
年齢別	20 歳代	7 人	42.9%	42.9%	0.0%	28.6%	14.3%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	28.6%
	30 歳代	15 人	26.7%	66.7%	13.3%	26.7%	40.0%	20.0%	13.3%	0.0%	13.3%	6.7%
	40 歳代	18 人	27.8%	88.9%	22.2%	27.8%	16.7%	16.7%	16.7%	11.1%	11.1%	5.6%
	50 歳代	16 人	50.0%	56.3%	25.0%	37.5%	37.5%	31.3%	25.0%	25.0%	25.0%	6.3%
	60 歳代	26 人	73.1%	42.3%	30.8%	50.0%	34.6%	34.6%	23.1%	19.2%	19.2%	3.8%
	70 歳代以上	20 人	70.0%	65.0%	45.0%	65.0%	70.0%	40.0%	45.0%	40.0%	30.0%	25.0%
区別	門司区	10 人	60.0%	80.0%	20.0%	50.0%	40.0%	40.0%	10.0%	10.0%	10.0%	10.0%
	小倉北区	15 人	26.7%	40.0%	20.0%	26.7%	33.3%	40.0%	26.7%	6.7%	13.3%	6.7%
	小倉南区	22 人	45.5%	63.6%	22.7%	36.4%	27.3%	9.1%	18.2%	4.5%	13.6%	9.1%
	若松区	13 人	69.2%	76.9%	38.5%	61.5%	46.2%	46.2%	30.8%	46.2%	23.1%	0.0%
	八幡東区	9 人	33.3%	66.7%	33.3%	22.2%	44.4%	44.4%	0.0%	33.3%	33.3%	11.1%
	八幡西区	26 人	61.5%	50.0%	34.6%	46.2%	50.0%	23.1%	38.5%	23.1%	26.9%	19.2%
	戸畑区	7 人	71.4%	71.4%	0.0%	57.1%	14.3%	14.3%	14.3%	14.3%	0.0%	14.3%

障害のある方に接したり、交流したりした経験の具体的な内容は、「仕事で障害のある人と接している。または、過去、接したことがある」（60.8%）の割合が最も高く、次いで「身内や親しい人に障害のある人がいる」（52.0%）の割合となった。そのほか、「車椅子を押したり持ち上げたりするのを手伝ったことがある」（42.2%）や「列車やバスなどで席を譲ったことがある」（38.2%）の順となっている。

問３　<問１で「２　ない」と答えた方におたずねします>

接した経験がない理由は何ですか（○はいくつでも）

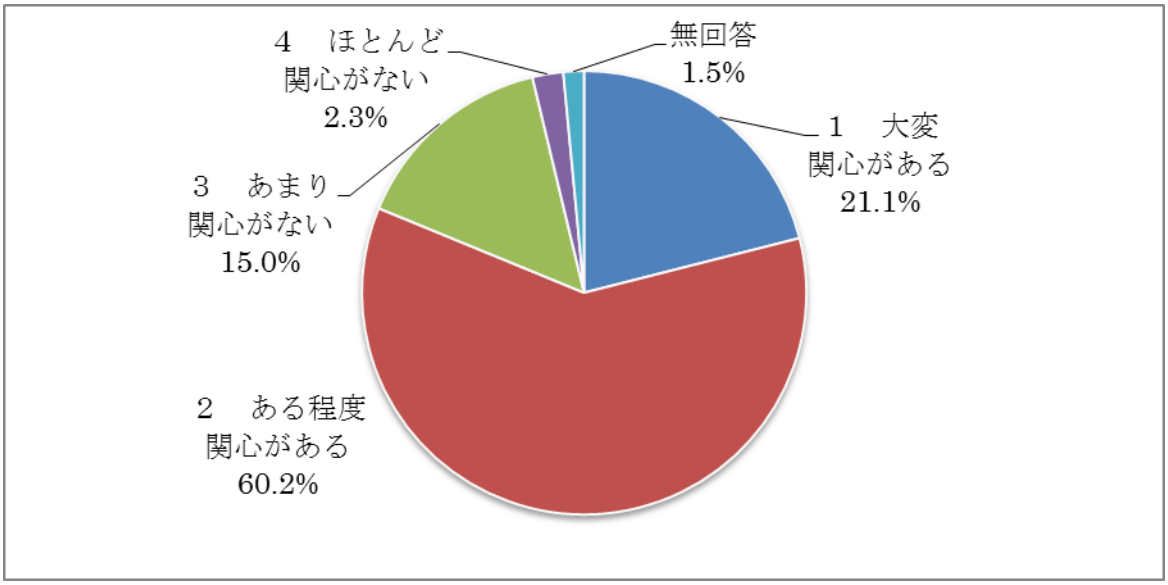


		回答者数	１　接する機会やきっかけがなかった	２　どのように接したらよいかわからない	３　おせっかいのような気がする	４　気恥ずかしさを感じる	５　関心がない	６　その他
全体		31 人	90.3%	32.3%	9.7%	3.2%	0.0%	0.0%
性別	男性	10 人	80.0%	30.0%	10.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	女性	21 人	95.2%	33.3%	9.5%	4.8%	0.0%	0.0%
年齢別	20 歳代	7 人	85.7%	57.1%	14.3%	14.3%	0.0%	0.0%
	30 歳代	4 人	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	40 歳代	6 人	100.0%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	50 歳代	4 人	75.0%	50.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	60 歳代	3 人	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	70 歳代以上	7 人	85.7%	42.9%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%
区別	門司区	6 人	83.3%	66.7%	16.7%	16.7%	0.0%	0.0%
	小倉北区	8 人	87.5%	37.5%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%
	小倉南区	6 人	83.3%	16.7%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%
	若松区	1 人	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	八幡東区	2 人	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	八幡西区	6 人	100.0%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	戸畑区	2 人	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

障害のある方に接したり、交流したりしたことがない理由として、多くの方が「接する機会やきっかけがなかった」と回答した。

なお、「関心がない」と回答した方は0.0%であった。

問４　あなたは、障害福祉に関心をお持ちですか（○は１つだけ）



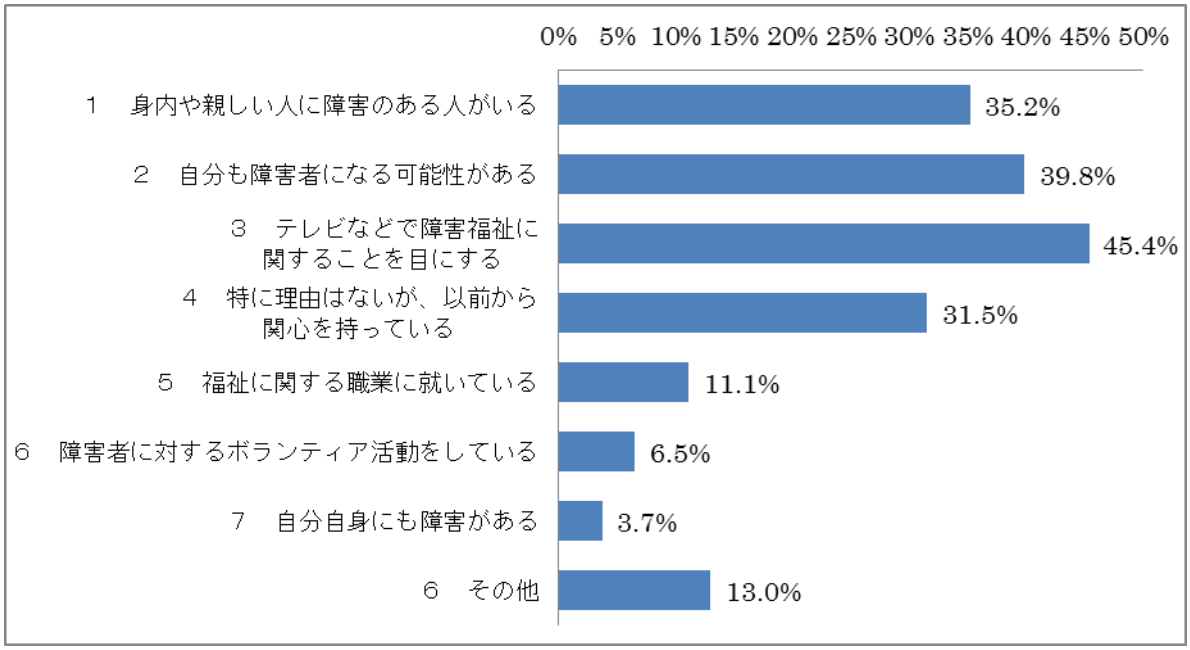
		回答者数	1　大変関心がある	2　ある程度関心がある	3　あまり関心がない	4　ほとんど関心がない	無回答
全体		133 人	21.1%	60.2%	15.0%	2.3%	1.5%
性別	男性	46 人	28.3%	56.5%	10.9%	2.2%	2.2%
	女性	87 人	17.2%	62.1%	17.2%	2.3%	1.1%
年齢別	20 歳代	14 人	7.1%	42.9%	50.0%	0.0%	0.0%
	30 歳代	19 人	10.5%	57.9%	21.1%	10.5%	0.0%
	40 歳代	24 人	20.8%	50.0%	25.0%	4.2%	0.0%
	50 歳代	20 人	20.0%	70.0%	10.0%	0.0%	0.0%
	60 歳代	29 人	20.7%	72.4%	3.4%	0.0%	3.4%
	70 歳代以上	27 人	37.0%	59.3%	0.0%	0.0%	3.7%
区別	門司区	16 人	0.0%	68.8%	25.0%	0.0%	6.3%
	小倉北区	23 人	17.4%	52.2%	26.1%	4.3%	0.0%
	小倉南区	28 人	25.0%	64.3%	7.1%	0.0%	3.6%
	若松区	14 人	42.9%	42.9%	14.3%	0.0%	0.0%
	八幡東区	11 人	0.0%	81.8%	9.1%	9.1%	0.0%
	八幡西区	32 人	25.0%	59.4%	12.5%	3.1%	0.0%
	戸畑区	9 人	33.3%	55.6%	11.1%	0.0%	0.0%

「大変関心がある」（21.1%）、「ある程度関心がある」（60.2%）を合わせ 81.3%が障害福祉に関心を持っているとの回答だった。

年齢別でみると、「大変関心がある」と「ある程度関心がある」を合わせた割合は、２０歳代でちょうど 50.0%に、３０歳以上は、すべての世代で 60%を超えており、特に５０歳代以上で、90%を超える非常に高い割合になった。

問５　<問４で「１　大変関心がある」または、「２　ある程度関心がある」と答えた方におたずねします>

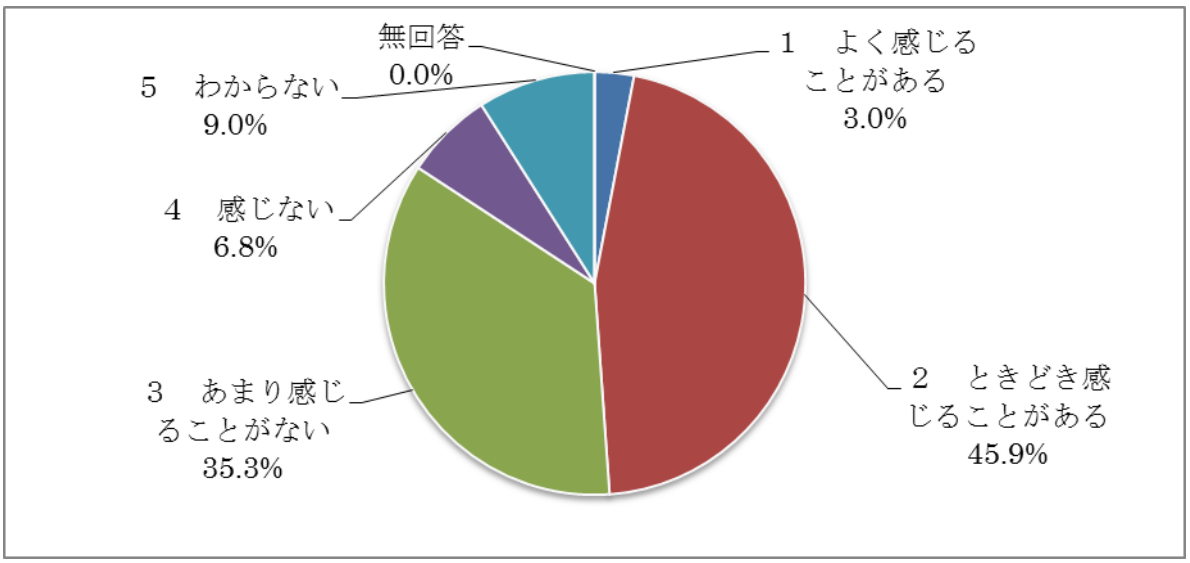
どのような理由から関心をお持ちですか（○はいくつでも）



		回答者数	１　身内や親しい人に障害のある人がいる	２　自分も障害者になる可能性がある	３　テレビなどで障害福祉に関することを目にする	４　特に理由はないが、以前から関心を持っている	５　福祉に関する職業に就いている	６　障害者に対するボランティア活動をしている	７　自分自身にも障害がある	６　その他
全体		108 人	35.2%	39.8%	45.4%	31.5%	11.1%	6.5%	3.7%	13.0%
性別	男性	39 人	41.0%	51.3%	43.6%	30.8%	10.3%	10.3%	5.1%	5.1%
	女性	69 人	31.9%	33.3%	46.4%	31.9%	11.6%	4.3%	2.9%	17.4%
年齢別	20 歳代	7 人	28.6%	0.0%	42.9%	42.9%	14.3%	0.0%	0.0%	14.3%
	30 歳代	13 人	15.4%	53.8%	46.2%	30.8%	7.7%	0.0%	0.0%	23.1%
	40 歳代	17 人	17.6%	52.9%	64.7%	17.6%	17.6%	0.0%	0.0%	0.0%
	50 歳代	18 人	27.8%	55.6%	33.3%	16.7%	22.2%	5.6%	0.0%	11.1%
	60 歳代	27 人	51.9%	29.6%	29.6%	44.4%	7.4%	7.4%	11.1%	7.4%
	70 歳代以上	26 人	46.2%	34.6%	57.7%	34.6%	3.8%	15.4%	3.8%	23.1%
区別	門司区	11 人	27.3%	63.6%	54.5%	54.5%	9.1%	0.0%	0.0%	0.0%
	小倉北区	16 人	12.5%	37.5%	18.8%	37.5%	18.8%	6.3%	12.5%	6.3%
	小倉南区	25 人	36.0%	40.0%	48.0%	28.0%	16.0%	4.0%	0.0%	16.0%
	若松区	12 人	33.3%	41.7%	66.7%	41.7%	8.3%	16.7%	8.3%	8.3%
	八幡東区	9 人	44.4%	22.2%	11.1%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	44.4%
	八幡西区	27 人	40.7%	29.6%	55.6%	25.9%	7.4%	11.1%	0.0%	11.1%
	戸畑区	8 人	62.5%	62.5%	50.0%	0.0%	12.5%	0.0%	12.5%	12.5%

どのような理由から障害福祉に関心を持ったかについては、「テレビなどで障害福祉に関することを目にする」（45.4%）が最も高く、次いで、「自分も障害者になる可能性がある」（39.8%）、「身内や親しい人に障害のある人がいる」（35.2%）の順となっている。

問６　あなたは、日常生活や地域で障害のある方に対する差別・偏見などを感じることがありますか（○は１つだけ）

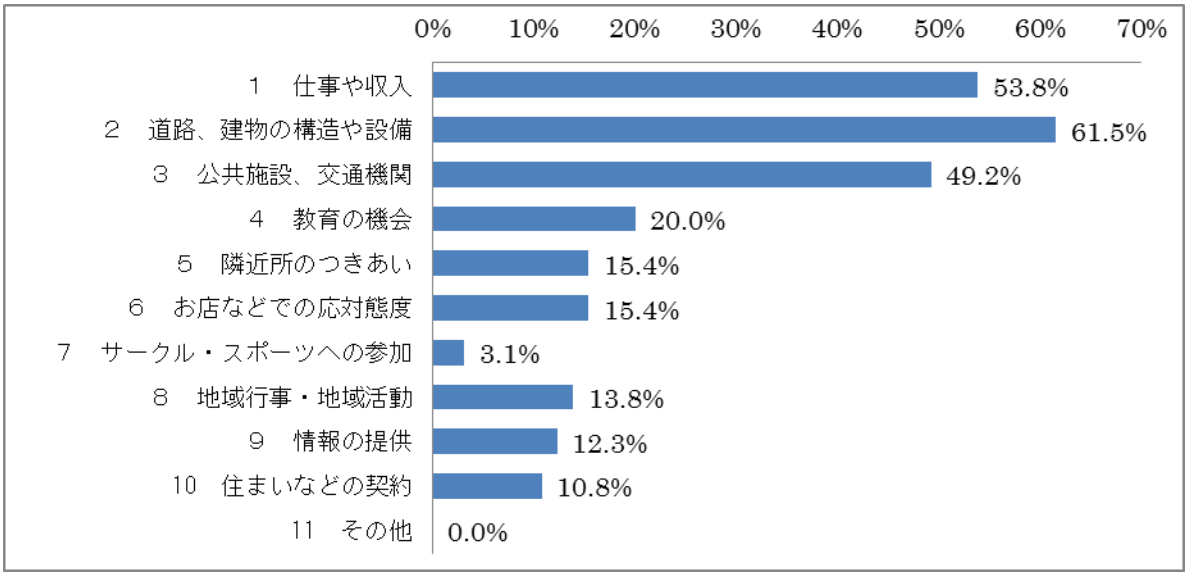


		回答者数	1　よく感じることがある	2　ときどき感じることがある	3　あまり感じることがない	4　感じない	5　わからない	無回答
全体		133 人	3.0%	45.9%	35.3%	6.8%	9.0%	0.0%
性別	男性	46 人	2.2%	52.2%	26.1%	13.0%	6.5%	0.0%
	女性	87 人	3.4%	42.5%	40.2%	3.4%	10.3%	0.0%
年齢別	20 歳代	14 人	0.0%	28.6%	42.9%	7.1%	21.4%	0.0%
	30 歳代	19 人	0.0%	31.6%	42.1%	10.5%	15.8%	0.0%
	40 歳代	24 人	8.3%	58.3%	20.8%	0.0%	12.5%	0.0%
	50 歳代	20 人	0.0%	55.0%	30.0%	10.0%	5.0%	0.0%
	60 歳代	29 人	6.9%	37.9%	48.3%	3.4%	3.4%	0.0%
	70 歳代以上	27 人	0.0%	55.6%	29.6%	11.1%	3.7%	0.0%
区別	門司区	16 人	6.3%	37.5%	37.5%	6.3%	12.5%	0.0%
	小倉北区	23 人	8.7%	39.1%	39.1%	4.3%	8.7%	0.0%
	小倉南区	28 人	0.0%	53.6%	28.6%	0.0%	17.9%	0.0%
	若松区	14 人	0.0%	50.0%	14.3%	35.7%	0.0%	0.0%
	八幡東区	11 人	0.0%	63.6%	27.3%	0.0%	9.1%	8.3%
	八幡西区	32 人	0.0%	34.4%	53.1%	6.3%	6.3%	0.0%
	戸畑区	9 人	11.1%	66.7%	22.2%	0.0%	0.0%	0.0%

日常生活や地域で障害のある方に対する差別・偏見などを「よく感じることがある」（3.0%）と「ときどき感じることがある」（45.9%）を合わせて、48.9%であり、障害のある方に対する差別・偏見などを感じる方が、全体の半数以下であった。

問７　<問６で「１　よく感じることがある」又は「２　ときどき感じることがある」と答えた方におたずねします>

どのようなところに最も強く障害のある方に対する差別・偏見、または配慮のなさを感じますか（○は特に感じるもの３つまで）



※　設問の回答には補足説明あり　　1　仕事や収入（職場環境や就労条件、賃金など）
9　情報の提供（災害時などを含む）
10　住まいなどの契約（アパートやマンションなどの賃貸契約など）

		回答者数	1 仕事や収入	2 道路、建物の構造や設備	3 公共施設、交通機関	4 教育の機会	5 隣近所のつきあい	6 お店などでの応対態度	7 サークル・スポーツへの参加	8 地域行事・地域活動	9 情報の提供	10 住まいなどの契約	11 その他
全体		65 人	53.8%	61.5%	49.2%	20.0%	15.4%	15.4%	3.1%	13.8%	12.3%	10.8%	0.0%
性別	男性	25 人	60.0%	68.0%	52.0%	12.0%	20.0%	12.0%	4.0%	24.0%	12.0%	16.0%	0.0%
	女性	40 人	50.0%	57.5%	47.5%	25.0%	12.5%	17.5%	2.5%	7.5%	12.5%	7.5%	0.0%
年齢別	20 歳代	4 人	75.0%	50.0%	50.0%	25.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	30 歳代	6 人	83.3%	66.7%	100.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	16.7%	0.0%	0.0%
	40 歳代	16 人	25.0%	62.5%	43.8%	25.0%	25.0%	12.5%	6.3%	6.3%	18.8%	12.5%	0.0%
	50 歳代	11 人	54.5%	63.6%	63.6%	18.2%	18.2%	9.1%	0.0%	18.2%	9.1%	18.2%	0.0%
	60 歳代	13 人	76.9%	76.9%	46.2%	15.4%	15.4%	15.4%	0.0%	7.7%	15.4%	15.4%	0.0%
	70歳代以上	15 人	46.7%	46.7%	26.7%	6.7%	13.3%	20.0%	6.7%	26.7%	6.7%	6.7%	0.0%
区別	門司区	7 人	57.1%	57.1%	71.4%	57.1%	14.3%	0.0%	0.0%	28.6%	14.3%	14.3%	0.0%
	小倉北区	11 人	54.5%	72.7%	36.4%	18.2%	9.1%	36.4%	0.0%	0.0%	0.0%	18.2%	0.0%
	小倉南区	15 人	53.3%	60.0%	60.0%	20.0%	13.3%	6.7%	0.0%	13.3%	26.7%	0.0%	0.0%
	若松区	7 人	57.1%	42.9%	28.6%	14.3%	57.1%	14.3%	14.3%	28.6%	0.0%	28.6%	0.0%
	八幡東区	7 人	42.9%	57.1%	42.9%	14.3%	14.3%	0.0%	14.3%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%
	八幡西区	11 人	54.5%	63.6%	36.4%	0.0%	9.1%	27.3%	0.0%	18.2%	18.2%	18.2%	0.0%
	戸畑区	7 人	57.1%	71.4%	71.4%	28.6%	0.0%	14.3%	0.0%	0.0%	14.3%	0.0%	0.0%

最も強く障害のある方に対する差別・偏見、または配慮のなさを感じている具体的な内容については、「道路、建物の構造や設備」（61.5%）、次に「仕事や収入」（53.8%）、「公共施設、交通機関」（49.2%）の順だった。

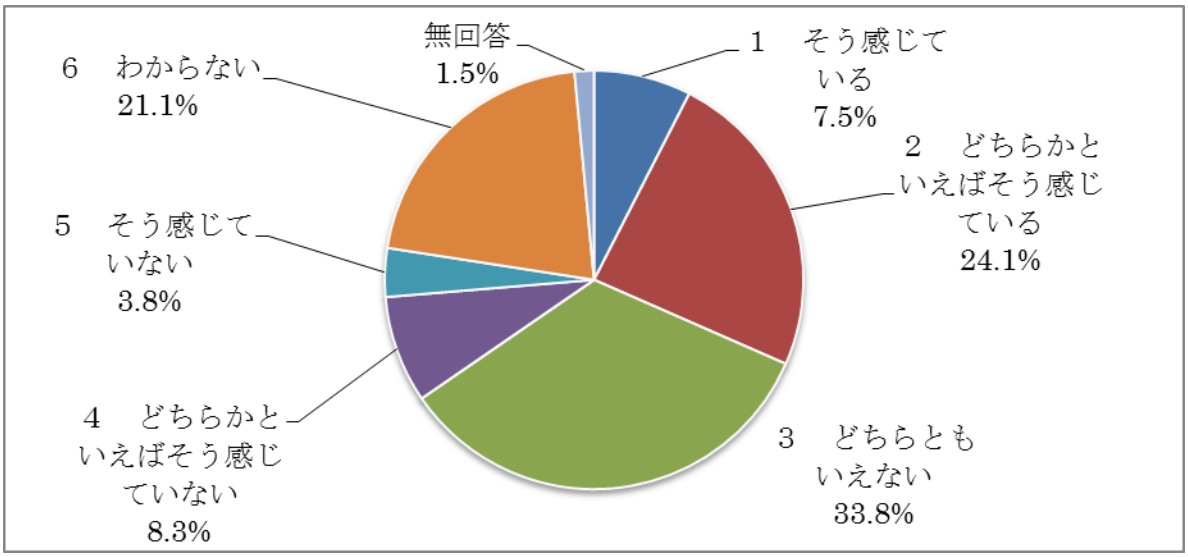
２．北九州市の障害福祉施策の取り組み状況について

【障害者の雇用・就業機会の確保と拡大】

問８　北九州市では、働く意欲のある障害のある人の雇用を促進するため、障害者しごとサポートセンターを設置し、障害のある人への就労支援に取り組んでいます。

また、企業での障害のある人の雇用を促進するための取り組み、一般企業等での就労が困難な人に働く場を提供し、必要な支援を行う就労継続支援事業所等の充実などにも取り組んでいます。そこで、おたずねします。

あなたは、北九州市では、障害者の意欲や能力に応じた多様な就業機会が確保されてきたと感じますか。（○は１つだけ）



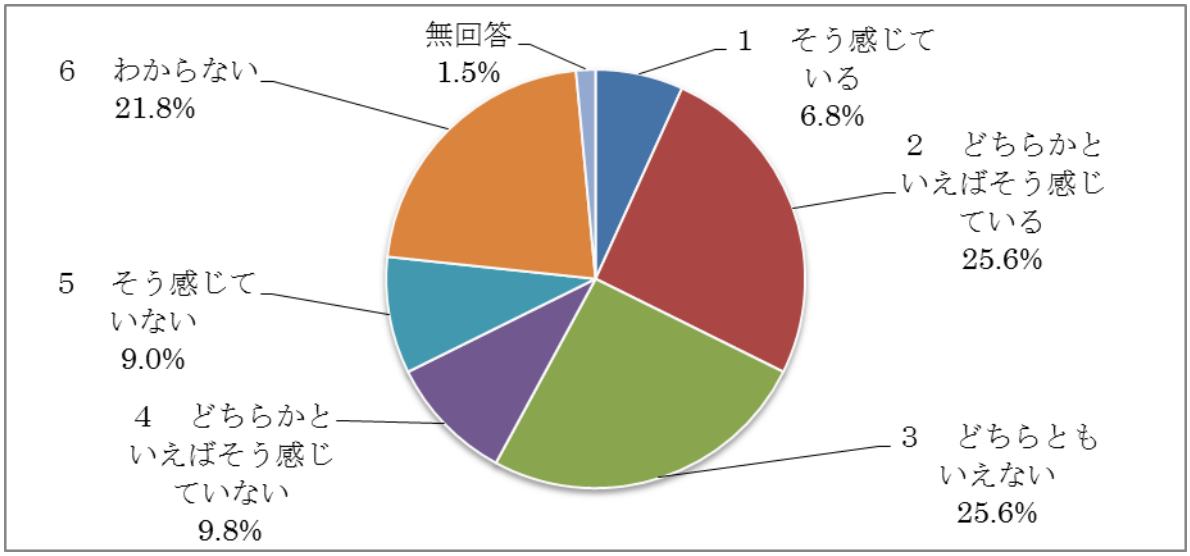
		回答者数	1　そう感じている	2　どちらかといえばそう感じている	3　どちらともいえない	4　どちらかといえばそう感じていない	5　そう感じていない	6　わからない	無回答
全体		133 人	7.5%	24.1%	33.8%	8.3%	3.8%	21.1%	1.5%
性別	男性	46 人	4.3%	23.9%	30.4%	10.9%	10.9%	17.4%	2.2%
	女性	87 人	9.2%	24.1%	35.6%	6.9%	0.0%	23.0%	1.1%
年齢別	20 歳代	14 人	0.0%	14.3%	14.3%	21.4%	0.0%	50.0%	0.0%
	30 歳代	19 人	10.5%	15.8%	42.1%	5.3%	5.3%	21.1%	0.0%
	40 歳代	24 人	16.7%	25.0%	33.3%	8.3%	0.0%	16.7%	0.0%
	50 歳代	20 人	10.0%	20.0%	35.0%	10.0%	15.0%	10.0%	0.0%
	60 歳代	29 人	3.4%	41.4%	24.1%	6.9%	0.0%	20.7%	3.4%
	70 歳代以上	27 人	3.7%	18.5%	48.1%	3.7%	3.7%	18.5%	3.7%
区別	門司区	16 人	6.3%	18.8%	31.3%	0.0%	6.3%	31.3%	6.3%
	小倉北区	23 人	13.0%	21.7%	34.8%	13.0%	0.0%	17.4%	0.0%
	小倉南区	28 人	7.1%	21.4%	32.1%	17.9%	0.0%	21.4%	0.0%
	若松区	14 人	7.1%	14.3%	35.7%	14.3%	21.4%	7.1%	0.0%
	八幡東区	11 人	9.1%	27.3%	36.4%	0.0%	0.0%	27.3%	0.0%
	八幡西区	32 人	3.1%	34.4%	31.3%	3.1%	3.1%	21.9%	3.1%
	戸畑区	9 人	11.1%	22.2%	44.4%	0.0%	0.0%	22.2%	0.0%

障害者の意欲や能力に応じた多様な就業機会が確保されてきたと感じるかについて、「そう感じている」（7.5%）、「どちらかといえばそう感じている」（24.1%）を合わせて、31.6%であったのに対し、「どちらかといえばそう感じていない」（8.3%）、「そう感じていない」（3.8%）を合わせた12.1%を上回っている。

【障害者就労施設等の物品等に対する需要の増進等】

問９　北九州市では、障害者就労施設等からの物品等の調達の推進を図るとともに、北九州市内の障害福祉サービス事業所等で作っている商品等の質の向上や魅力ある商品の開発、販路の開拓・拡大等を図る「北九州ＮＵＫＵＭＯＲＩ（ぬくもり）プロジェクト推進事業」に取り組んでいます。障害者自立支援ショップ「一丁目の元気」（小倉北区京町）では、障害福祉サービス事業所等の協働による「北九州ぬくもりブランド」商品の販売も行われています。そこでおたずねします。

あなたは、北九州市では障害者就労施設等の物品等に対する需要を拡大するための取り組みが進んできたと感じますか（○は１つだけ）



		回答者数	1 そう感じている	2 どちらかといえばそう感じている	3 どちらともいえない	4 どちらかといえばそう感じていない	5 そう感じていない	6 わからない	無回答
全体		133 人	6.8%	25.6%	25.6%	9.8%	9.0%	21.8%	1.5%
性別	男性	46 人	4.3%	26.1%	28.3%	8.7%	10.9%	21.7%	0.0%
	女性	87 人	8.0%	25.3%	24.1%	10.3%	8.0%	21.8%	2.3%
年齢別	20 歳代	14 人	7.1%	7.1%	21.4%	14.3%	14.3%	35.7%	0.0%
	30 歳代	19 人	10.5%	10.5%	31.6%	5.3%	10.5%	26.3%	5.3%
	40 歳代	24 人	12.5%	16.7%	29.2%	16.7%	8.3%	16.7%	0.0%
	50 歳代	20 人	5.0%	30.0%	20.0%	10.0%	20.0%	15.0%	0.0%
	60 歳代	29 人	6.9%	34.5%	24.1%	10.3%	3.4%	17.2%	3.4%
	70 歳代以上	27 人	0.0%	40.7%	25.9%	3.7%	3.7%	25.9%	0.0%
区別	門司区	16 人	6.3%	12.5%	25.0%	6.3%	18.8%	25.0%	6.3%
	小倉北区	23 人	8.7%	21.7%	21.7%	8.7%	17.4%	17.4%	4.3%
	小倉南区	28 人	7.1%	28.6%	21.4%	25.0%	3.6%	14.3%	0.0%
	若松区	14 人	7.1%	14.3%	28.6%	7.1%	7.1%	35.7%	0.0%
	八幡東区	11 人	9.1%	27.3%	18.2%	0.0%	9.1%	36.4%	0.0%
	八幡西区	32 人	3.1%	31.3%	34.4%	3.1%	6.3%	21.9%	0.0%
	戸畑区	9 人	11.1%	44.4%	22.2%	11.1%	0.0%	11.1%	0.0%

北九州市では、障害者就労施設等の物品等に対する需要を拡大するための取り組みが進んできたと感じるかについては、「そう感じている」（6.8%）、「どちらといえばそう感じている」（25.6%）を合わせた 32.4%が肯定的な回答で、「どちらかといえばそう感じない」（9.8%）、「そう感じていない」（9.0%）を合わせた 18.8%が否定的な回答であり、肯定的な回答が否定的な回答を約 14 ポイント上回っている。

【発達障害のある人に対する支援】

問１０　北九州市では、発達障害（※）のある人がライフステージに応じた一貫した支援が受けられるよう、子育て（保育所、幼稚園等）、教育（小中学校、特別支援学校）、福祉（基幹相談支援センター、区役所、子ども総合センター）、医療（総合療育センター、各医療機関）等の関係部署が一体となって取り組んでいます。

また、個別の相談などの支援活動は、北九州市発達障害者支援センター「つばさ」を中心に行うと共に、講演会やパンフレットの配布などにより、発達障害の特性や支援の状況等について紹介するなど発達障害の理解の促進を図っています。

※「発達障害」について

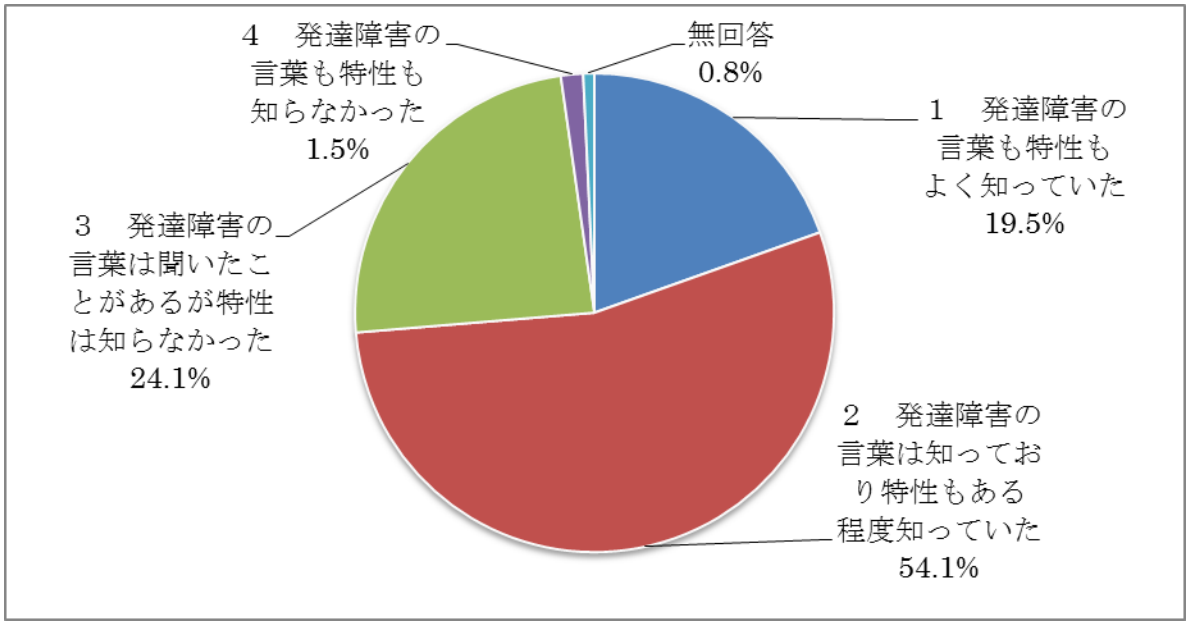
発達障害は、親の育て方や本人の性格によるものではなく、脳の機能障害によってもたらされるもので、自閉症、アスペルガー症候群、学習障害（LD）、注意欠陥多動性障害（ADHD）などがあります。

その特性は障害によって様々ですが、例えば、突然予定が変わるとパニックを起こす、こだわりが極端に強い、人とのコミュニケーションがうまく取れない、曖昧な表現を理解することが苦手、などが見受けられます。

本人にあった適切な関わりや環境調整があれば、社会の中で豊かな才能を発揮することができます。

そこで、おたずねします。

あなたは、発達障害についてご存知でしたか（○は１つだけ）



		回答者数	1　発達障害の言葉も特性もよく知っていた	2　発達障害の言葉は知っており特性もある程度知っていた	3　発達障害の言葉は聞いたことがあるが特性は知らなかった	4　発達障害の言葉も特性も知らなかった	無回答
全体		133 人	19.5%	54.1%	24.1%	1.5%	0.8%
性別	男性	46 人	15.2%	47.8%	34.8%	2.2%	0.0%
	女性	87 人	21.8%	57.5%	18.4%	1.1%	1.1%
年齢別	20 歳代	14 人	28.6%	50.0%	14.3%	7.1%	0.0%
	30 歳代	19 人	42.1%	42.1%	15.8%	0.0%	0.0%
	40 歳代	24 人	16.7%	62.5%	20.8%	0.0%	0.0%
	50 歳代	20 人	20.0%	45.0%	35.0%	0.0%	0.0%
	60 歳代	29 人	13.8%	55.2%	27.6%	0.0%	3.4%
	70 歳代以上	27 人	7.4%	63.0%	25.9%	3.7%	0.0%
区別	門司区	16 人	18.8%	56.3%	18.8%	6.3%	0.0%
	小倉北区	23 人	13.0%	56.5%	26.1%	0.0%	4.3%
	小倉南区	28 人	21.4%	53.6%	25.0%	0.0%	0.0%
	若松区	14 人	14.3%	42.9%	42.9%	0.0%	0.0%
	八幡東区	11 人	18.2%	81.8%	0.0%	0.0%	0.0%
	八幡西区	32 人	18.8%	53.1%	28.1%	0.0%	0.0%
	戸畑区	9 人	44.4%	33.3%	11.1%	11.1%	0.0%

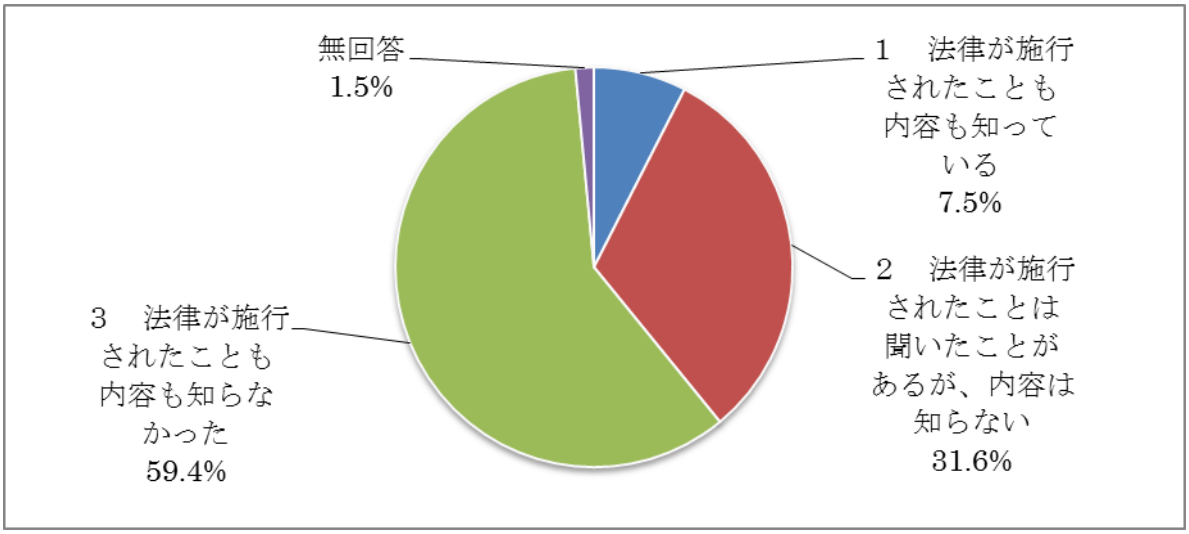
発達障害について知っているかについては、「発達障害の言葉も特性もよく知っていた」（19.5%）、「発達障害の言葉は知っており特性もある程度知っていた」（54.1%）を合わせた73.6%の方が、発達障害について知っているとの回答で、「発達障害の言葉も特性も知らなかった」（1.5%）との回答を７０ポイント以上、上回った。

【障害者差別解消法の周知】

問１１　平成２８年４月１日、障害を理由とする差別を禁止して、障害のない人との平等な機会や待遇を保障するために「障害者差別解消法」が施行されました。

この法律は、差別を解消するための措置として、国・地方公共団体等及び民間事業者に対して「不当な差別的取扱いの禁止」と「合理的配慮の提供」が義務付けられています。

あなたは、「障害者差別解消法」をご存知ですか（○は１つだけ）



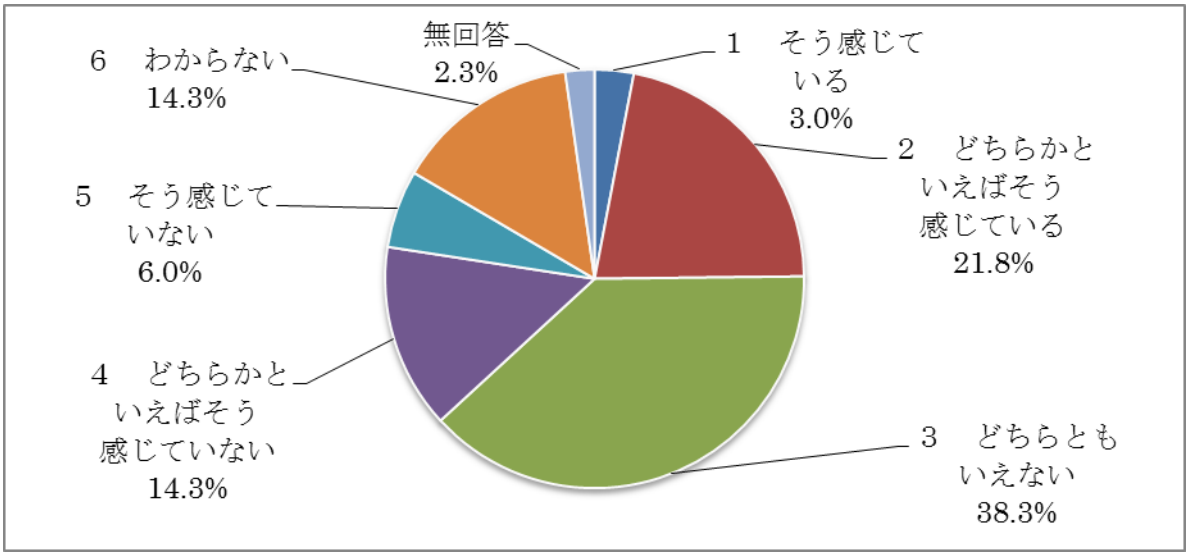
		回答者数	1　法律が施行されたことも内容も知っている	2　法律が施行されたことは聞いたことがあるが、内容は知らない	3　法律が施行されたことも内容も知らなかった	無回答
全体		133 人	7.5%	31.6%	59.4%	1.5%
性別	男性	46 人	10.9%	43.5%	45.7%	0.0%
	女性	87 人	5.7%	25.3%	66.7%	2.3%
年齢別	20 歳代	14 人	7.1%	28.6%	64.3%	0.0%
	30 歳代	19 人	10.5%	15.8%	73.7%	0.0%
	40 歳代	24 人	8.3%	25.0%	66.7%	0.0%
	50 歳代	20 人	15.0%	35.0%	50.0%	0.0%
	60 歳代	29 人	3.4%	31.0%	62.1%	3.4%
	70 歳代以上	27 人	3.7%	48.1%	44.4%	3.7%
区別	門司区	16 人	6.3%	37.5%	50.0%	6.3%
	小倉北区	23 人	4.3%	30.4%	65.2%	0.0%
	小倉南区	28 人	10.7%	17.9%	71.4%	0.0%
	若松区	14 人	7.1%	42.9%	50.0%	0.0%
	八幡東区	11 人	9.1%	9.1%	81.8%	0.0%
	八幡西区	32 人	6.3%	40.6%	50.0%	3.1%
	戸畑区	9 人	11.1%	44.4%	44.4%	0.0%

障害者差別解消法について知っているかについては、法律について知っているとの回答は、「法律が施行されたことも内容も知っている」（7.5%）、「法律が施行されたことは聞いたことがあるが、内容を知らない」（31.6%）を合わせて 39.1%に留まっており、「法律が施行されたことも内容も知らなかった」（59.4%）の方が、約 20 ポイント上回った。

【障害のある人の人権の尊重】

問１２　北九州市では、障害や障害のある人に対する正しい理解を深め、障害の有無にかかわらず、相互に権利を尊重できる社会を実現するため、行政だけでなく地域・学校・企業など様々な機会をとらえた市民啓発を推進しています。そこで、おたずねします。

北九州市では、障害や障害のある人に対する正しい理解が浸透し、不当な差別的取扱いの無い、合理的な配慮が提供される社会になったと感じますか（○は１つだけ）



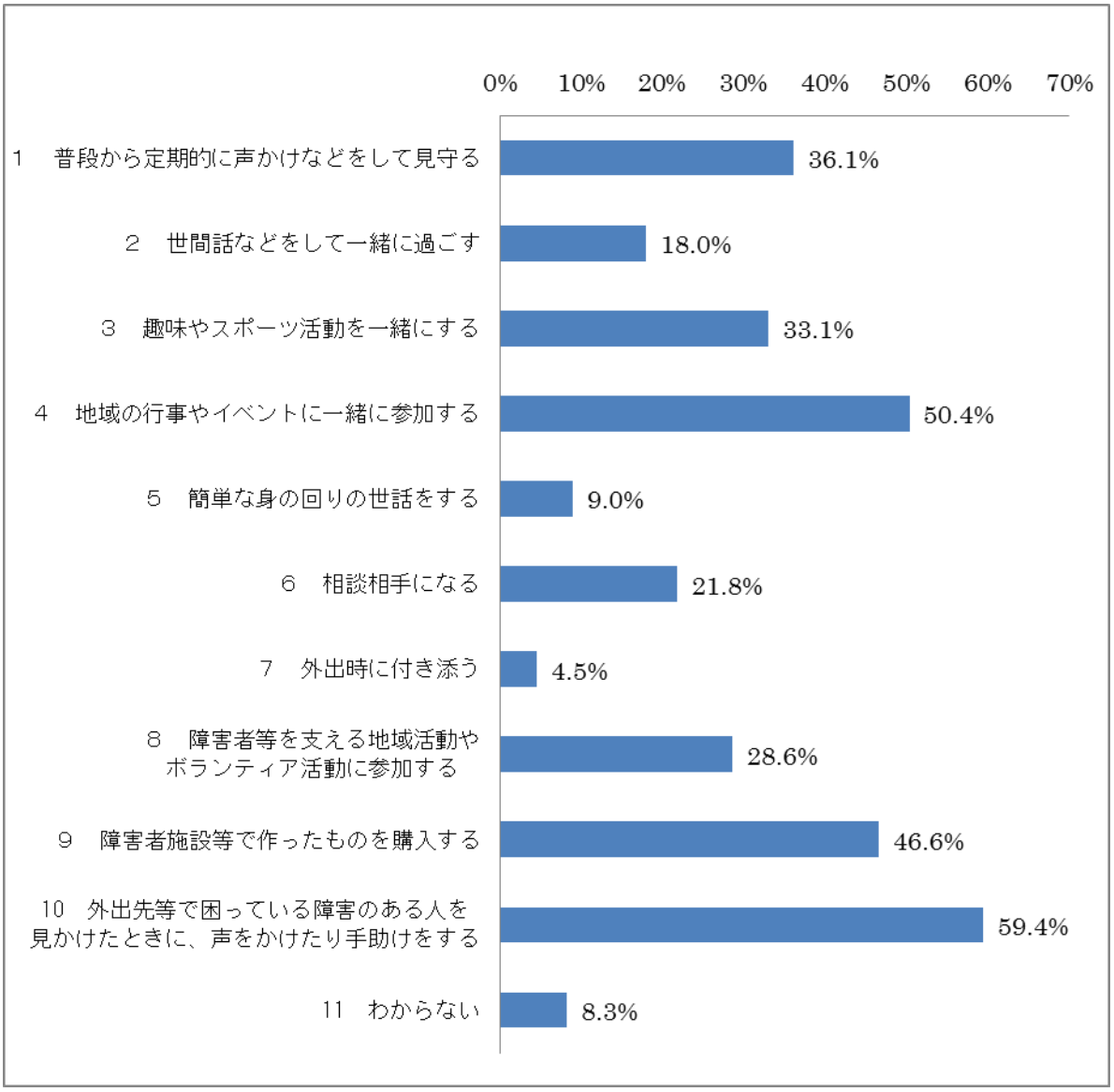
		回答者数	1　そう感じている	2　どちらかといえばそう感じている	3　どちらともいえない	4　どちらかといえばそう感じていない	5　そう感じていない	6　わからない	無回答
全体		133 人	3.0%	21.8%	38.3%	14.3%	6.0%	14.3%	2.3%
性別	男性	46 人	2.2%	21.7%	34.8%	21.7%	8.7%	10.9%	0.0%
	女性	87 人	3.4%	21.8%	40.2%	10.3%	4.6%	16.1%	3.4%
年齢別	20 歳代	14 人	0.0%	21.4%	28.6%	21.4%	7.1%	21.4%	0.0%
	30 歳代	19 人	5.3%	15.8%	31.6%	10.5%	15.8%	21.1%	0.0%
	40 歳代	24 人	0.0%	29.2%	41.7%	16.7%	0.0%	12.5%	0.0%
	50 歳代	20 人	0.0%	15.0%	55.0%	20.0%	5.0%	5.0%	0.0%
	60 歳代	29 人	3.4%	24.1%	31.0%	17.2%	10.3%	6.9%	6.9%
	70 歳代以上	27 人	7.4%	22.2%	40.7%	3.7%	0.0%	22.2%	3.7%
区別	門司区	16 人	6.3%	25.0%	12.5%	12.5%	6.3%	31.3%	6.3%
	小倉北区	23 人	4.3%	17.4%	43.5%	17.4%	4.3%	13.0%	0.0%
	小倉南区	28 人	0.0%	32.1%	42.9%	17.9%	3.6%	3.6%	0.0%
	若松区	14 人	0.0%	7.1%	42.9%	14.3%	21.4%	14.3%	0.0%
	八幡東区	11 人	9.1%	9.1%	45.5%	9.1%	0.0%	27.3%	0.0%
	八幡西区	32 人	3.1%	21.9%	37.5%	9.4%	6.3%	15.6%	6.3%
	戸畑区	9 人	0.0%	33.3%	44.4%	22.2%	0.0%	0.0%	0.0%

障害や障害のある人に対する正しい理解が浸透してきたと感じるかについては、「そう感じている」（3.0%）、「どちらかといえばそう感じている」（21.8%）を合わせた24.8%が肯定的な回答で、「どちらかといえばそう感じていない」（14.3%）、「そう感じていない」（6.0%）を合わせた20.3%が否定的な回答であり、肯定的な回答が否定的な回答を4.5ポイント上回った。

一方で、「どちらともいえない」の回答が38.3%と高くなっている。

３．共生社会を実現するための取り組みについて

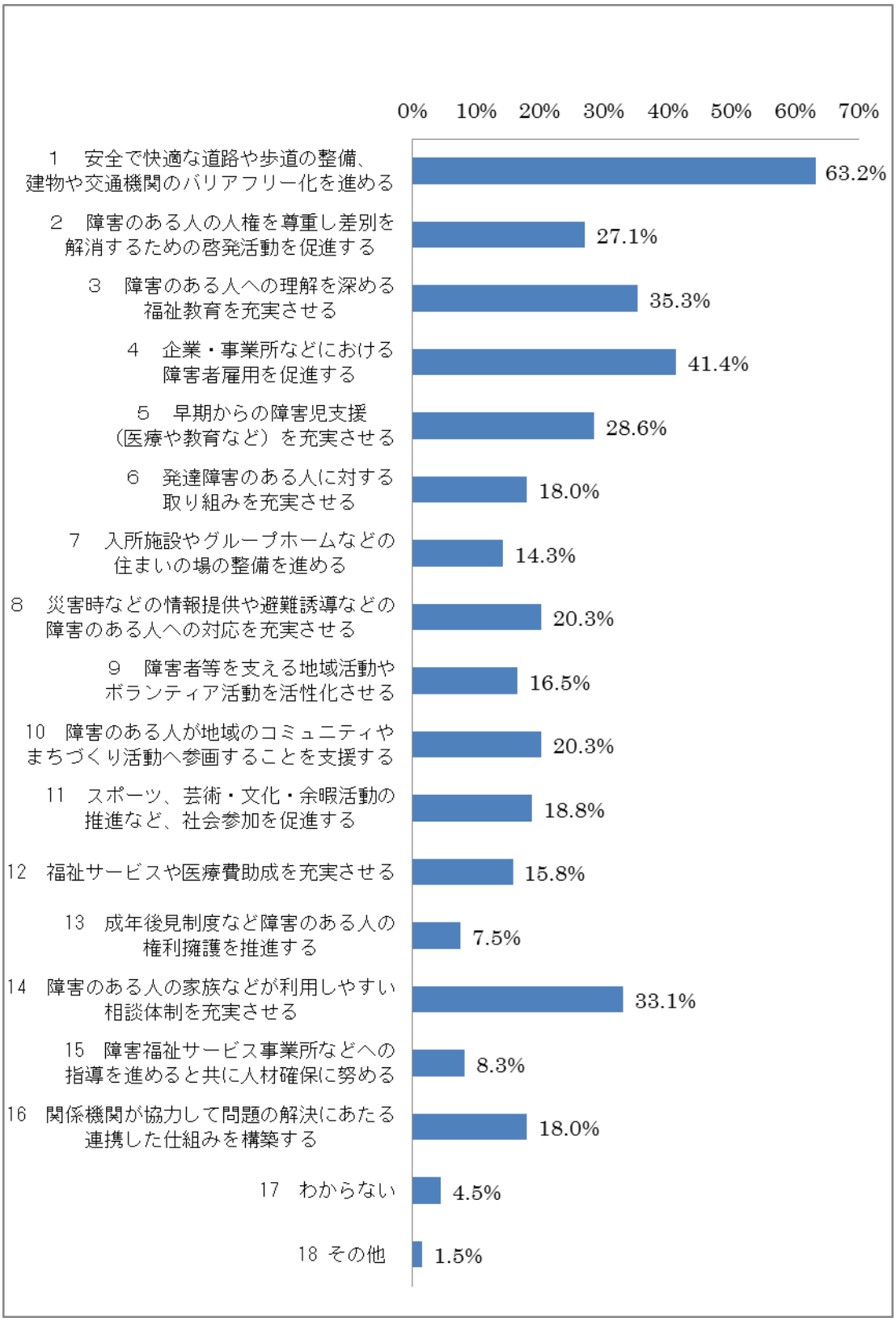
問１３　北九州市では、障害の有無にかかわらず、すべての市民が、互いの人格や個性を尊重し合いながら、安心していきいきと暮らすことのできる共生のまちづくりを目指しています。今後、地域で生活する障害を持つ人とかかわっていく中で、あなた自身が地域の一員としてできると思うことは何ですか。次の中から、あてはまるものを選んでください（○はいくつでも）。



		回答者数	1 普段から定期的に声かけなどをして見守る	2 世間話などをして一緒に過ごす	3 趣味やスポーツ活動を一緒にする	4 地域の行事やイベントに一緒に参加する	5 簡単な身の回りの世話をする	6 相談相手になる	7 外出時に付き添う	8 障害者等を支える地域活動やボランティア活動に参加する	9 障害者施設等で作ったものを購入する	10 外出先等で声をかけたり手助けをする	11 わからない
全体		133 人	36.1%	18.0%	33.1%	50.4%	9.0%	21.8%	4.5%	28.6%	46.6%	59.4%	8.3%
性別	男性	46 人	34.8%	21.7%	45.7%	56.5%	4.3%	23.9%	6.5%	34.8%	39.1%	50.0%	15.2%
	女性	87 人	36.8%	16.1%	26.4%	47.1%	11.5%	20.7%	3.4%	25.3%	50.6%	64.4%	4.6%
年齢別	20 歳代	14 人	21.4%	7.1%	28.6%	21.4%	14.3%	14.3%	0.0%	21.4%	50.0%	57.1%	14.3%
	30 歳代	19 人	15.8%	10.5%	31.6%	57.9%	5.3%	10.5%	0.0%	31.6%	57.9%	57.9%	10.5%
	40 歳代	24 人	41.7%	29.2%	41.7%	50.0%	8.3%	16.7%	8.3%	20.8%	45.8%	58.3%	4.2%
	50 歳代	20 人	25.0%	20.0%	25.0%	35.0%	20.0%	35.0%	15.0%	25.0%	40.0%	50.0%	20.0%
	60 歳代	29 人	48.3%	17.2%	34.5%	72.4%	6.9%	24.1%	3.4%	41.4%	51.7%	69.0%	0.0%
	70歳代以上	27 人	48.1%	18.5%	33.3%	48.1%	3.7%	25.9%	0.0%	25.9%	37.0%	59.3%	7.4%
区別	門司区	16 人	25.0%	25.0%	37.5%	43.8%	6.3%	18.8%	6.3%	18.8%	25.0%	50.0%	18.8%
	小倉北区	23 人	30.4%	4.3%	39.1%	43.5%	4.3%	21.7%	4.3%	43.5%	65.2%	65.2%	8.7%
	小倉南区	28 人	39.3%	17.9%	46.4%	57.1%	0.0%	21.4%	7.1%	35.7%	35.7%	57.1%	10.7%
	若松区	14 人	28.6%	28.6%	42.9%	64.3%	7.1%	28.6%	7.1%	35.7%	50.0%	50.0%	14.3%
	八幡東区	11 人	63.6%	27.3%	9.1%	36.4%	18.2%	36.4%	0.0%	0.0%	36.4%	63.6%	0.0%
	八幡西区	32 人	28.1%	15.6%	21.9%	56.3%	15.6%	21.9%	3.1%	25.0%	53.1%	65.6%	3.1%
	戸畑区	9 人	66.7%	22.2%	22.2%	33.3%	22.2%	0.0%	0.0%	22.2%	55.6%	55.6%	0.0%

共生社会を実現するにあたって、あなた自身が地域の一員としてできると思うことは何かについては、「外出先等で困っている障害のある人を見かけたときに、声をかけたり手助けをする」（59.4%）の割合が最も高く、次いで「地域の行事やイベントに一緒に参加する」（50.4%）、「障害者施設等で作ったものを購入する」（46.6%）の順となっている。

問１４　あなたは、障害福祉施策を充実させるために北九州市が取り組むもののうち、今後、特に力を入れるべき取り組みは何だと思いますか。次の中から、あてはまるものを選んでください（○は５つまで）。



※　設問の回答選択肢は以下のとおり

11　スポーツやレクレーション、芸術・文化・余暇活動の推進など、障害のある人の社会参加を促進する

		回答者数	1 安全で快適なバリアフリー化を進める	2 差別解消の啓発活動を促進する	3 福祉教育を充実させる	4 障害者雇用を促進する	5 早期からの障害児支援の充実	6 発達障害の取り組みの充実	7 住まいの場の整備を進める	8 災害時などの情報提供や避難誘導の充実	9 地域活動やボランティア活動の活性化
全体		133 人	63.2%	27.1%	35.3%	41.4%	28.6%	18.0%	14.3%	20.3%	16.5%
性別	男性	46 人	65.2%	45.7%	32.6%	43.5%	19.6%	13.0%	19.6%	23.9%	21.7%
	女性	87 人	62.1%	17.2%	36.8%	40.2%	33.3%	20.7%	11.5%	18.4%	13.8%
年齢別	20 歳代	14 人	50.0%	0.0%	42.9%	42.9%	35.7%	14.3%	14.3%	14.3%	14.3%
	30 歳代	19 人	31.6%	21.1%	52.6%	21.1%	26.3%	31.6%	0.0%	10.5%	15.8%
	40 歳代	24 人	75.0%	16.7%	37.5%	41.7%	25.0%	12.5%	12.5%	12.5%	20.8%
	50 歳代	20 人	70.0%	25.0%	35.0%	30.0%	55.0%	15.0%	20.0%	20.0%	5.0%
	60 歳代	29 人	75.9%	37.9%	34.5%	55.2%	31.0%	13.8%	10.3%	31.0%	24.1%
	70 歳代以上	27 人	63.0%	44.4%	18.5%	48.1%	7.4%	22.2%	25.9%	25.9%	14.8%
区別	門司区	16 人	62.5%	18.8%	37.5%	25.0%	25.0%	0.0%	12.5%	12.5%	6.3%
	小倉北区	23 人	65.2%	30.4%	30.4%	43.5%	39.1%	30.4%	8.7%	8.7%	13.0%
	小倉南区	28 人	50.0%	32.1%	32.1%	46.4%	28.6%	10.7%	10.7%	25.0%	25.0%
	若松区	14 人	64.3%	42.9%	28.6%	35.7%	14.3%	7.1%	7.1%	35.7%	14.3%
	八幡東区	11 人	45.5%	27.3%	45.5%	27.3%	36.4%	36.4%	9.1%	18.2%	9.1%
	八幡西区	32 人	68.8%	18.8%	34.4%	46.9%	28.1%	25.0%	25.0%	15.6%	21.9%
	戸畑区	9 人	100.0%	22.2%	55.6%	55.6%	22.2%	11.1%	22.2%	44.4%	11.1%

		回答者数	10 まちづくり活動参画への支援	11 スポーツなど、社会参加を促進する	12 福祉サービスや医療費助成を充実させる	13 障害のある人の権利擁護を推進する	14 相談体制を充実させる	15 サービス事業所などへの指導と人材確保	16 連携した仕組みの構築	17 わからない	18 その他
全体		133 人	20.3%	18.8%	15.8%	7.5%	33.1%	8.3%	18.0%	4.5%	1.5%
性別	男性	46 人	23.9%	17.4%	17.4%	4.3%	30.4%	8.7%	19.6%	6.5%	2.2%
	女性	87 人	18.4%	19.5%	14.9%	9.2%	34.5%	8.0%	17.2%	3.4%	1.1%
年齢別	20 歳代	14 人	14.3%	14.3%	14.3%	7.1%	28.6%	0.0%	0.0%	7.1%	0.0%
	30 歳代	19 人	15.8%	21.1%	10.5%	15.8%	47.4%	5.3%	10.5%	15.8%	5.3%
	40 歳代	24 人	20.8%	25.0%	16.7%	4.2%	33.3%	4.2%	12.5%	0.0%	0.0%
	50 歳代	20 人	10.0%	20.0%	20.0%	10.0%	25.0%	10.0%	20.0%	5.0%	0.0%
	60 歳代	29 人	31.0%	3.4%	17.2%	6.9%	34.5%	20.7%	27.6%	0.0%	0.0%
	70歳代以上	27 人	22.2%	29.6%	14.8%	3.7%	29.6%	3.7%	25.9%	3.7%	3.7%
区別	門司区	16 人	6.3%	6.3%	18.8%	6.3%	18.8%	18.8%	18.8%	12.5%	6.3%
	小倉北区	23 人	17.4%	21.7%	30.4%	8.7%	39.1%	8.7%	17.4%	4.3%	0.0%
	小倉南区	28 人	28.6%	21.4%	10.7%	10.7%	25.0%	14.3%	10.7%	0.0%	0.0%
	若松区	14 人	21.4%	35.7%	0.0%	0.0%	35.7%	0.0%	28.6%	14.3%	0.0%
	八幡東区	11 人	9.1%	18.2%	0.0%	9.1%	45.5%	0.0%	9.1%	0.0%	9.1%
	八幡西区	32 人	25.0%	18.8%	15.6%	9.4%	37.5%	6.3%	21.9%	3.1%	0.0%
	戸畑区	9 人	22.2%	0.0%	33.3%	0.0%	33.3%	0.0%	22.2%	0.0%	0.0%

年代	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳代以上
1位	安全で快適な道路や歩道の整備、建物や交通機関のバリアフリー化を進める	障害のある人への理解を深める福祉教育を充実させる	安全で快適な道路や歩道の整備、建物や交通機関のバリアフリー化を進める	安全で快適な道路や歩道の整備、建物や交通機関のバリアフリー化を進める	安全で快適な道路や歩道の整備、建物や交通機関のバリアフリー化を進める	安全で快適な道路や歩道の整備、建物や交通機関のバリアフリー化を進める
2位	障害のある人への理解を深める福祉教育を充実させる	障害のある人の家族などが利用しやすい相談体制を充実させる	障害のある人への理解を深める福祉教育を充実させる	早期からの障害児支援（医療や教育など）を充実させる	企業・事業所などにおける障害者雇用を促進する	企業・事業所などにおける障害者雇用を促進する
3位	企業・事業所などにおける障害者雇用を促進する	安全で快適な道路や歩道の整備、建物や交通機関のバリアフリー化を進める	企業・事業所などにおける障害者雇用を促進する	障害のある人への理解を深める福祉教育を充実させる	障害のある人の人権を尊重し差別を解消するための啓発活動を促進する	障害のある人の人権を尊重し差別を解消するための啓発活動を促進する
4位	早期からの障害児支援（医療や教育など）を充実させる	発達障害のある人に対する取り組みを充実させる	障害のある人の家族などが利用しやすい相談体制を充実させる	企業・事業所などにおける障害者雇用を促進する	障害のある人への理解を深める福祉教育を充実させる	スポーツ、芸術・文化・余暇活動の推進など、社会参加を促進する
5位	障害のある人の家族などが利用しやすい相談体制を充実させる	早期からの障害児支援（医療や教育など）を充実させる	早期からの障害児支援（医療や教育など）を充実させる	障害のある人の人権を尊重し差別を解消するための啓発活動を促進する	障害のある人の家族などが利用しやすい相談体制を充実させる	障害のある人の家族などが利用しやすい相談体制を充実させる
			スポーツ、芸術・文化・余暇活動の推進など、社会参加を促進する	障害のある人の家族などが利用しやすい相談体制を充実させる		

北九州市が特に力を入れるべき取り組みは何かについて、「安全で快適な道路や歩道の整備、建物や交通機関のバリアフリー化を進める」（63.2%）の割合が最も高く、次いで「企業・事業所などにおける障害者雇用を促進する」（41.4%）、「障害のある人への理解を深める福祉教育を充実させる」（35.3%）の順となっている。

世代別にみると、全世代共に「安全で快適な道路や歩道の整備、建物や交通機関のバリアフリー化を進める」や「企業・事業者などにおける障害者雇用を促進する」の順位が高く、若い世代は、「障害のある人への福祉教育を充実させる」や「早期からの障害児支援（医療や教育など）を充実させる」の順位が高い。また、高齢者は「障害のある人の人権を尊重し差別を解消するための啓発活動を推進する」の順位が高い傾向にある。

問１５　北九州市の障害福祉施策について、その他ご意見がありましたらご自由にご記入ください。

４０件のご意見をいただきました。主なものは次のとおりです。

〔行政の取り組みに関すること〕

○ 障害福祉対策は遅れている気がする。どんどん進めてほしい。

○ 障害をもつ人だけでなく、家族が障害を持っているかもしれないと悩む身内の駆け込み寺みたいなサービスもあっても良いのではないか。

○ 北九州市障害福祉計画（素案）に対する意見募集など、計画内容を広く知らせる機会となるし、市民の意見を聞く機会としてとてもよい。

○ 新総合療育センターの建設、再整備に期待が大きい。

○ 民間やＮＰＯ団体などの力が必要。民間をまきこんだ施策をもっと取りくんでほしい。

○ 障害福祉施策についてよく取り組んでいる方だと感じるが、施策があまり知られていない。

〔発達障害等に関すること〕

○ 行政、警察、地域住民、NPO などで話し合い、わかりにくい障害についての認識を市民に深める施策が必要。

○ 小さい子どもの支援が必要では。発達障害の子のひろい上げ、フォロー体制があまり明確ではない気がする。

〔就労に関すること〕

○ 障害のある人々の継続的な安定した職場を増やし、障害者が受け取る収入又は給料が健常者並になり、自立出来る環境を整えるのが何より必要。雇用する事業者への手厚い支援も配慮してほしい。

○ 社会生活を送るための働く場をつくることが最も大事で、関係性をもつことで偏見は少なくなる。

○ 障害者の方が活躍出来る施設や地元企業の働く場を作ってほしい。

〔差別解消・啓発活動等に関すること〕

○ 「障害者差別解消法」は良いのですが、何が差別に当たり差別にならないのかの判断が難しい。

○ 子供の頃からの自然な教育が最も大事。障害者を理解することができるように、当たりまえの存在と皆が思えるように、心が育つことが大事だと思う。

○ 子どもの時から障害者と健常者が一緒にレクレーションや行事に参加すると偏見やこだわりがなくなるのではないかと思う。

○ 手助けが必要な時は、回りにもそれが分かりやすいような、啓発活動なり、社会のしくみ、教育カリキュラム（小･中･高校等）などが、重要なのではないか。

○ 障害のある方と接するという機会が今まで無かったので、どう接して良いものか、不安と少しの恐怖心がある人もたくさん居ると思います。学生時代に障害のある方について学ぶ機会があれば良かった。

○ 思いやりの教育が学校等では進んできていると感じるが、子どもよりまず大人に教育できる機会が少ないと感じており、その点が重要と考える。

Ⅳ　全体考察

本市では、平成２３年度に障害者基本法に基づく障害福祉分野の基本計画として、「北九州市障害者支援計画（平成２４年度～２９年度）」を策定した。これは、「障害者基本法（第１１条）」に規定された本市の障害者施策に関する基本的な計画である「市町村障害者計画」と、「障害者総合支援法（第８８条）」に規定された、障害福祉サービス等の見込み量やその確保のための方策などを定めた「市町村障害福祉計画（第３期）」を包含した計画である。

また、平成２７年３月には新たな「障害福祉計画（第４期）」を策定するとともに、実施計画の見直しを行い、「北九州市障害者計画拡充版」を策定した。

現行の計画は、平成２９年度で計画期間が終了することから、平成３０年度を初年度とする「（次期）北九州市障害者支援計画」を、平成２９年度中に策定する予定である。

障害福祉施策に関する市民の意見やご要望を伺い、その結果を新たな計画の基礎資料とするとともに、今後の本市の障害福祉施策の推進の参考とするためにアンケート調査を実施したものである。

【障害のある方への理解や関心について】

障害のある方に接したり、交流したりした経験がある人は、全体の 76.7%で、具体的な内容としては、前回、最も答えが多かった「身内や親しい人に障害のある人がいる」（52.0%）に代わり、「仕事で障害のある人と接している。または、過去、接したことがある」（60.8%）の回答が最も多かった。

一方で、障害のある方に接したり、交流したりした経験がない人の多くが、その理由として、「障害のある方と接する機会やきっかけがなかった」（90.3%）と回答している。

また、障害福祉への関心度は、「大変関心がある」と「ある程度関心がある」を合わせると 81.3%となり、その理由として、前回の「身内や親しい人に障害のある人がいる」（35.2%）に代わり、「テレビなどで障害福祉に関することを目にする」（45.4%）、「自分も障害者になる可能性がある」（39.8%）の回答が多かった。

仕事でのかかわりやテレビなどの娯楽を楽しむなど日常生活の中で、障害のある方に接したり、目にしたりする機会が増え、身近なテーマになっていることが確認できた。

日常生活や地域で障害のある方に対する差別・偏見などを感じることがある人は、「よく感じることがある」、「ときどき感じることがある」を合わせると 48.9%である。具体的に、どのようなところに最も強く障害のある方に対する差別・偏見、または配慮のなさを感じるか尋ねたところ、「道路、建物の構造や設備」（61.5%）の回答が最も多く、次いで「仕事や収入（職場環境や就労条件、賃金など）」（53.8%）、「公共施設、交通機関」（49.2%）の順となっている。

平成２６年度に実施した前回調査結果と比較すると、障害のある方に対する差別・偏見については、感じることが「ある」人は、前回（57.3%）から減少してはいるものの、未だ、半数近くの方が、何らかの差別・偏見を感じており、障害のある方に対する差別・偏見を解消するために、引き続き、取り組みが必要である。

【北九州市の障害福祉施策の取り組み状況について】

北九州市がこれまで取り組んできた障害福祉施策の中から５つの施策をあげて、施策の取り組みに対する評価等についてたずねた。

障害者の意欲や能力に応じた多様な就業機会が確保されてきたと「感じている」人の割合（「どちらかといえばそう感じている」を含む。以下同じ。）は31.6%、「感じていない」人の割合（「どちらかといえばそう感じていない」を含む。以下同じ。）は 12.1%となり、肯定的に感じている人の割合がそう感じていない人の割合を上回っている。

また、障害者就労施設等の物品等に対する需要を拡大するための取り組みが進んできたと「感じている」人の割合は、32.4%、「感じていない」人の割合は 18.8%となり、こちらも肯定的に感じている人の割合がそう感じていない人の割合を上回っている。

平成２６年度に実施した前回調査結果と比較すると、就業機会の確保、障害者就労施設等の物品等に対する需要の拡大については、「感じている」人と「感じていない」人は、いずれも割合が減少、「どちらともいえない」が若干、増加している。取り組む施策の見えにくさも考えられるため、今後、一層の取り組みが必要である。

「発達障害」の言葉や特性を「知っていた」人の割合（「ある程度知っていた」を含む。）は73.6%、言葉も特性も「知らなかった」人の割合は1.5%となっている。

言葉も特性も「知らなかった」人の割合は、平成２６年度に実施した前回調査結果と比較すると減少（4.8%→1.5%）しており、発達障害の言葉は十分周知されていることが確認された。

平成２８年４月に施行された障害者差別解消法については、「知っている」人の割合（「聞いたことがあるが内容は知らない」を含む。）は、39.1%であり、施行されたことも内容も「知らなかった」人の割合は59.4%となっている。

障害や障害のある人に対する正しい理解が浸透してきたと「感じている」人の割合は、24.8%、「感じていない」人の割合は20.3%となり、肯定的に感じている人の割合がそう感じていない人の割合を上回っている。一方で、「どちらともいえない」の回答が38.3%と最も高くなっている。

５つの施策ともに、肯定的に感じている人の割合がそう感じていない人の割合を上回っているが、「障害のある人の人権の尊重」については、「どちらともいえない」と感じている人の割合がもっとも高く、今後一層の取り組みが必要である。

【共生社会を実現するために必要な取り組みについて】

障害の有無にかかわらず、すべての市民が、互いの人格や個性を尊重し合いながら、安心していきいきと暮らすことのできる共生のまちづくりを目指している本市において、地域で生活する障害を持つ人とかかわっていく中で、自分自身が地域の一員としてできるとおもうことを尋ねたところ、「外出先等で困っている障害のある人を見かけたときに、声をかけたり手助けをする」人

の割合が 59.4%と最も多く、次いで「地域の行事やイベントに一緒に参加する」が 50.4%であり、回答者の半数以上が、外出先や地域のイベントで、障害を持つ人とかかわることができると考えていることが分かった。

一方で、「外出時に付き添う」（4.5%）、「簡単な身の回りの世話をする」（9.0%）など、障害を持つ人の生活を直接、手助けするようなかかわりには、消極的な回答であった。

障害福祉施策を充実させるために北九州市が取り組むもののうち、今後さらに力を入れるべき取り組みを尋ねたところ、「安全で快適な道路や歩道の整備、建物や交通機関のバリアフリー化を進める」の割合が 63.2%と最も高く、次いで「企業・事業所などにおける障害者雇用を促進する」（41.4%）、「障害のある人への理解を深める福祉教育を充実させる」（35.3%）と続いた。

これらについては、これまで取り組んできた施策であるが、今後も引き続き充実を図っていく必要がある。

【まとめ】

現在、「北九州市障害者支援計画（平成２４年度～２９年度）」では、「障害の有無にかかわらず、すべての市民が、互いの人格や個性を尊重し合いながら、安心していきいきと暮らすことのできる共生のまちづくり　～障害があっても一人の市民として、自分らしく生活できる地域社会の実現～　」を基本理念に、地域で自立して生活できる基盤整備や社会参加の促進などの取り組みを進めてきた。

その結果、障害をもつ人とのかかわりについて、仕事などで接するなど日常の中でのかかわりが増えた。また、本市が力を入れるべき取り組みについても、障害者雇用の促進や福祉教育の充実など、直接、障害のある人へのかかわりや理解をすすめる施策への関心が増加している。

一方で、地域において、自分自身が地域の一員として、障害を持つ人の生活を直接、手助けするようなかかわりには、消極的な回答が多いことから、今後より一層、地域住民との協働による、障害をもつ人の地域での生活を支援する仕組みづくりに取り組んでいく必要がある。

今回のアンケート結果を、「（次期）北九州市障害者支援計画」策定の参考とするとともに、障害の有無にかかわらず、すべての市民が、互いの人格や個性を尊重し合いながら、安心していきいきと暮らすことができる共生のまちづくりを進めるため、今後の障害福祉施策の推進に活かしていきたい。

【市政モニターに関すること】
市民文化スポーツ局市民部広聴課（TEL：582－2527）
【アンケートに関すること】
保健福祉局障害福祉部障害福祉企画課（TEL：582－2453）